（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス　いろどり			
○保護者評価実施期間	2026年　9月　1日	～	2026.年　9月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	18	（回答者数）	18
○従業者評価実施期間	2026年　9月　1日	～	2026.年　9月　30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　10月　30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの発達状況や特性に応じたグループ療育を実施し、集団活動を通じて社会性やコミュニケーション能力の向上を支援していきます。また、必要に応じて個別療育も取り入れ、柔軟な支援を行っています。	その日に利用する児童の発達状況や特性、興味・関心を考慮し、適した活動プログラムを検討・提供していきます。また、お子さまの状況や支援ニーズに応じて個別支援を取り入れ、無理なく活動に参加できるよう工夫しています。	週1回のプログラム策定会議を実施し、活動内容を検討しています。また、日々の支援の振り返りやお子さまの状態・様子を職員間で共有し、グループ療育と個別支援を適切に組み合わせながら、支援の質の向上を図っていきます。
2	児童の様子を職員間で共有し、一人ひとりの特性や状況に応じた支援方法を検討することで、職員間で共通認識を持ち、一貫性のある支援を行うことができる。	日々の児童の様子や支援の中で気づいたことを職員間で共有し、児童への理解を深めている、また、対応方法について職員同士で意見交換を行い、共通認識を持って支援できるよう努めている。	職員間での情報共有や支援の振り返りを更に充実させ、支援方法の統一や改善につなげていく。また、児童の成長や状況の変化に応じて支援方法を柔軟に見直し、より一貫性のある支援の提供を目指す。
3	職員の資質向上を目的とした研修を実施し、専門的な知識や支援技術の習得に努めることで、支援の質の向上につなげている。	月1回の内部研修を実施するとともに、市町等が開催する外部研修にも積極的に参加し、職員の専門的な知識や技術の向上に努めている。	職員のニーズや日々の支援における課題に応じた研修内容の充実を図るとともに。外部研修で得た知識や学びを職員間で共有し、実際の支援に活かせるように取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムの実施や、保護者等が参加できる研修機会の提供、子育てや発達支援に関する情報発信が十分ではなく、家族支援の充実に向けた取り組みが課題。	これまで児童への直接的な支援を中心に取り組んできたため、保護者等に向けた研修や家族支援プログラムの企画・実施、子育てや発達支援に関する情報発信の機会を十分に設けられていなかった。	新たに「いろどり通信」で開始した「いろどりラボ」を通じて、子育てや発達支援に関する情報発信を継続していく。また、市町等が開催する保護者向け研修の情報を積極的に共有するとともに、今後は保護者のニーズや実施時期を検討しながら、家族支援プログラムの開催にも取り組んでいきたい。
2	保護者同士やきょうだい同士が交流できる機会が限られており、家族間のつながりを深めるための交流の場づくりが課題。	これまで保護者やきょうだいが参加できるイベントの開催機会がなく、家族同士が交流できる場を十分に設けられていなかった。また、11月3日（祝日）に初めて保護者参加型イベントを開催予定。	今後も年1～2回程度の保護者参加型イベントの開催を検討し、親子で楽しめる活動に加え、保護者同士やきょうだい同士が自然に交流できるゲームや共同活動などを取り入れていく。また、参加しやすい日程や内容を検討し、家族同士のつながりを深められる機会の充実を図る。
3	帰りの送迎時に保護者をお会いする機会はありますが、限られた時間でのやり取りとなるため、十分な情報共有や相談が難しい場合があります。	送迎時は時間が限られており、お子様の様子を伝えることが中心をなりやすく、家庭での様子や保護者の思いを伺う時間の確保が難しい。	送迎時の情報共有に加え、連絡帳や定期的な面談を活用し、保護者の思いや家庭での様子を丁寧に把握しながら、家庭と連携した支援の充実を図っていきます。